

日本初の洋式スポーツ書といわれる『OUTDOOR GAMES』（当館所蔵）の全頁をウェブ上で公開し、ベースボールについては、日本語訳もご紹介します。

『OUTDOOR GAMES』は、明治 16 年 6 月に出版され、著者は東京大学予備門のお雇い外国人教師 F・W・ストレンジです。日本で出版されていますが、すべて英語で書かれています。（奥付のみ日本語）ストレンジ氏はイギリス人ですが日本での野球試合記録も残っており、Base Ball は 36 項目（34 種目と TRAINING と THE LAW OF ATHLETICS）中最大の 10 ページを割いて紹介されています（クリケットは 7 ページ）。

序文で参考文献として『The Boy' s Own Book』『Every Boy' s Book』と共に『Spalding' s Baseball Guide』をあげており、Base Ball の項目では、『Spalding' s Baseball Guide』のルールの一部が文章もそのまま抜粋して掲載されています。何年度のガイドを参考にしたか明記されていませんが、7 ボールで出塁（米国のルール変遷史では 1881～1883、1886 年）投球間は 50 フィート（1881 年から）になっており、さらに打者が走者になる際の記述には、1882 年から変更された表現（When→ Instantly after）をそのまま使用している箇所があるため、1882 年のガイドを見ていると考えられます。

日本語での最初の洋式スポーツ書といわれる『西洋戸外遊戯法』（下村泰大編集、明治 18 年 3 月発行）は、本の冒頭にある凡例でも明記しているように、ストレンジ著『OUTDOOR GAMES』の抄訳といわれています。しかし、そのベースボールのルールは全く異なり、『OUTDOOR GAMES』と比べると 15 年ぐらい古い 1868 年ごろのルールが反映されています。

「OUTDOOR GAMES」の日本語訳

ベース ボール

野球は米国人の国技だ。その起源は英国の遊びのラウンダーズにあるが、野球に秀でるには、男性としての高度な資質が必要だ。野球の理論は現在流行っているどのフィールドスポーツの理論と同様に簡単であり、そこに最も興味をそそる特徴の一つがある。しかし、それでもやはり最高に優れたプレーをするには高度の精神的能力と男性としての身体的能力を多く持つことが、他の知られた球技と同様に必要だ。野球の理論は以下の通りである——最初にプレーするために、幅 300 フィート長さ 500 フィートの平坦な場所を選ぶ。次にグラウンドに四角を描き、一つの角は本塁として、他の角は一塁、二塁、三塁とし、一塁は本塁に立つ打者の右に、三塁は左に置く。野球を戦うにはそれぞれ 9 人の二チームがあり、9 人は以下のポジションを占める。つまり、捕手、投手、一、

二、三塁手、遊撃手、そして左翼、中堅、右翼手だ。上記の最初の 6 名は内野手、残りの 3 名は外野手となり、フィールドにいる 9 人は「フィールド」あるいは「アウトハンド」（原書では out-hand となっていて、n が抜け落ちていると思われる）と呼ばれる。二チームはトス（コイントス）を行い、負けたチームが攻撃、勝ったチームが守備となり、各人が位置につく。そして、投手は相手チームの打者にボールを送り、打者は守備側が届かない所に、一塁へ、さらに多くの塁に走って行けるように深く打ち、途中でアウトにならず一周した場合は 1 点が得点される。同じチームの選手が続き、攻撃側の 3 人がアウトになるまで順番に攻撃する。3 人がアウトになったら守備側がバットを取り攻撃側となる。試合は 9 イニングで完了し、5 イニングが終了しなければノーゲームとなる。9 イニング終了時に同点の場合は、同数のイニング終了時にどちらかがより多くの得点を得るまでイニングを繰り返す。捕手は投手からのボールを受けるため打者の後ろにいる。投手は内野の中心付近、本塁から 50 フィートの位置に立ち、バットに向けてスロー（投げる）やジャーク（手をひねって投げる）、ボウル（転がす）ではなく、「ピッチ（下手で投げる）」だけが許されている。一塁手は塁上で送られてくるボールを処理し、その主な役目は打者が一塁ベースに到達する前に、片足をベースに付けながらボールを受けることだ。二塁手、三塁手はボールを受けるだけでなく、走者がベースに達する前に走者にタッチもする。遊撃手は投手と一、二、三塁手のバックアップと、打球が届くところに来た場合は、打球を取り各塁手に投げるためにいる。3 人の外野手の主な役目は長く高い打球を取りそのボールを戻すことだ。

定義と規則

ハイボールとは、打者のベルトより上、肩より下の高さで、本塁を通過して送られたボール。

ローボールとは、打者のベルトより下、ひざより上の高さで、本塁を通過して送られたボール。

ハイ・ローボールとは、打者の肩より下、ひざより上の高さで、本塁を通過して送られたボール。

フェアヒット（ヒット）とは、打者が打ったボールが、ファウルラインの内側あるいはライン上で、地面、一塁ベース、三塁ベース、選手など、どんな物でも、最初に接触したもの、あるいは選手に接触せずに直接地面に打ち込まれて、本塁と一塁、本塁と三塁を結ぶファウルラインの内側にバウンドしたり転がったりしたもの。（最初に地面に接した地点がフェアでもファウルでも）

ファウルヒット（ファウル）とは、打者が打ったボールが、ファウルライン

の外側で、地面、一塁ベース、三塁ベース、選手など、どんな物でも、最初に接触したもの、あるいは打席にいる打者に接触して、本塁と一塁、本塁と三塁を結ぶファウルラインの外側にバウンドしたり転がったりしたもの。(最初に地面に接した地点がフェアでもファウルでも)

ストライクとは、

1. 打者がバットを振ったが、バットに当たらなかったもの
2. 投手は打者の要求した高さに本塁を通過して送ったが、打者が打たなかったもの

イニングとは、一方の9人の攻撃時間ことで、3人がアウトになると終了する。打者が走者となる場合。

1. フェアーヒットを打った直後
2. 審判が7ボールを宣告した直後
3. 審判が3ストライクを宣告した直後

打席に立つ打者は、「ハイボール」、「ローボール」あるいは「ハイ・ローボール」と言わなければならない。審判は、投手の送る球を、1球ごとに「アンフェアボール」、または「ストライク」と数えて宣言する。

走者は、以下の場合アウトとならずに一つの塁を得る。

1. 打者の時に、審判が7球を宣言した場合
2. 審判が続く打者に7球を宣告し、塁上の走者が打者走者に押されて進塁する場合
3. 審判がボークを宣告した場合
4. 敵側の走塁妨害により塁に達しなかった場合
5. 野手が帽子や衣服の一部で打球を止めたり捕ったりした場合

走者は、アウトとならず安全に帰塁できる。

審判がファウルヒットを宣告し、ボールが地面に接する前に野手が捕球しなかった場合

走者はアウト

1. 打者の時にフェアーヒットを打つが、ボールが捕球された場合 (*地面に接する前に)
2. 3ストライクあるいはフェアーヒットの後、一塁に達する前に野手の捕球したボールでタッチされた場合
3. 3ストライク、7球、フェアーヒットの直後、打者が一塁へ走らなかった場合。
4. ボールインプレー中に、タッチした後もボールを捕球していることを条件に、野手にボールでタッチされた場合。塁に体の一部が接していて、塁を占拠していると認められる場合を除く。しかし、一塁に走る

場合は、最初に一塁に接した後に塁から離れても、ただちに帰って塁に再タッチすることを条件に、アウトにならずにオーバーランできる。その後は、他のどの塁でもアウトになる可能性がある。一塁をオーバーランした際、二塁へ行こうとすれば、アウトにならないという特別扱いを失う。

5. フェアあるいはファウルヒットが捕球された（*地面に接する前に）後、走者がベースに再タッチする前に、そのボールが野手によって走者のいる塁上で捕球された場合。

3アウトになる前に、走者が先の三つの塁をタッチした後に本塁にタッチする度に1点が得点される。

（*）は、Spalding Official Baseball Guide 1882 には before it touches the ground とあるが、Outdoor Games では省略されている。

翻訳：学芸員 新美和子